

平成14年 5月31日
原子力安全対策課
(14 - 34)
<11時資料配付>

新型転換炉ふげん発電所の原子炉起動と調整運転再開について
(燃料集合体漏えい対策後の起動について)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所は、平成14年1月7日から第17回定期検査中であるが、定格出力で調整運転中の4月17日に燃料集合体の漏えいと判断され、監視を強化して運転を継続していた。その後、4月21日に排気筒ガスモニタ等の指示値の上昇が確認されたため、同日12時31分、原子炉を手動で緊急停止した。

翌22日より漏えい燃料集合体の特定調査を実施し、1体の燃料集合体（特殊燃料集合体＊）の漏えいを確認した。

漏えいした特殊燃料集合体については、圧力管から使用済燃料貯蔵プールに移送し、水中検査装置により燃料棒の外観および寸法検査を実施したが、異常は認められなかった。また、当該特殊燃料集合体の製造記録、取り扱い履歴等を調査した結果、特に問題がなかったことから、今回の漏えいは、偶発的に微少な漏えいが発生したものと推定された。

なお、今回の事象による周辺環境への放射能の影響はなかった。

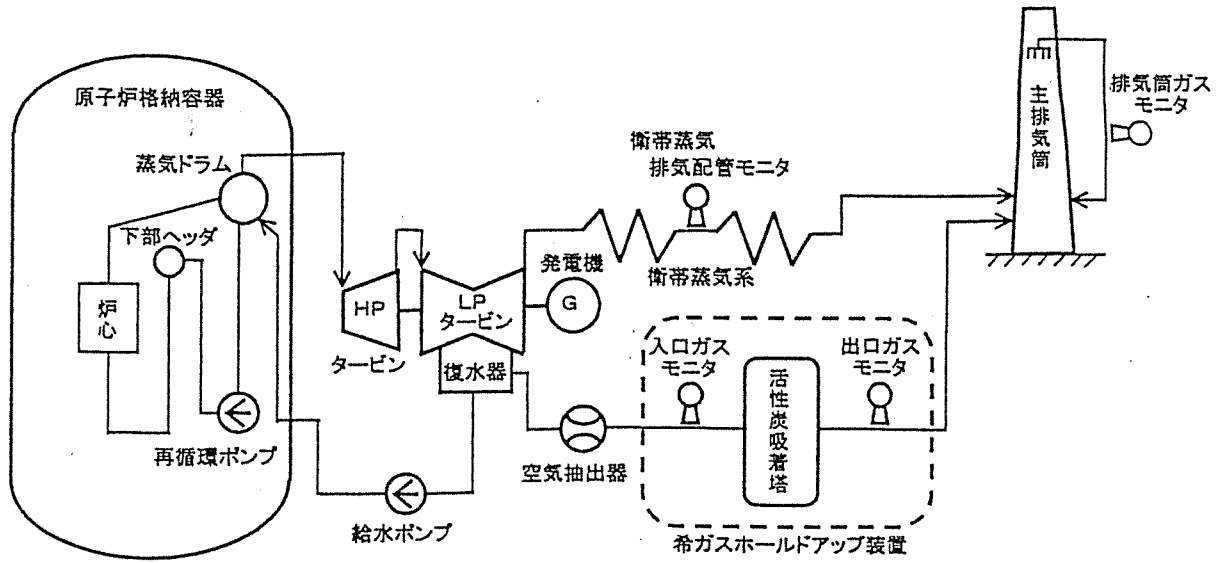
- * 特殊燃料集合体…圧力管材料試験片を組み込める構造となっているウラン燃料集合体。
圧力管材料試験片は炉内で照射され、材料の健全性を確認している。
[平成14年4月18日、21日、22日、25日、5月17日発表済み]

対策として、漏えいした特殊燃料集合体は取り出し、別の特殊燃料集合体（再使用）を装荷するとともに、原子炉出力の平坦化のため、MOX燃料集合体1体を新しいウラン燃料集合体に取り替える作業等を行い、その後、起動準備が終了したため、6月3日夕刻に原子炉を起動し、翌4日午後から調整運転を再開する予定である。

なお、調整運転再開にあたっては、気体廃棄物処理系モニタの指示値、冷却材中のヨウ素濃度の監視強化を図る。

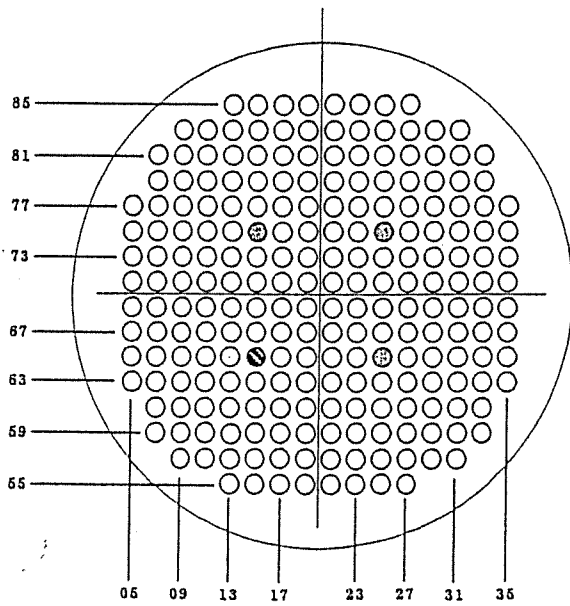
問い合わせ先

原子力安全対策課 担当：島田
内線2354 直通0776(20)0314

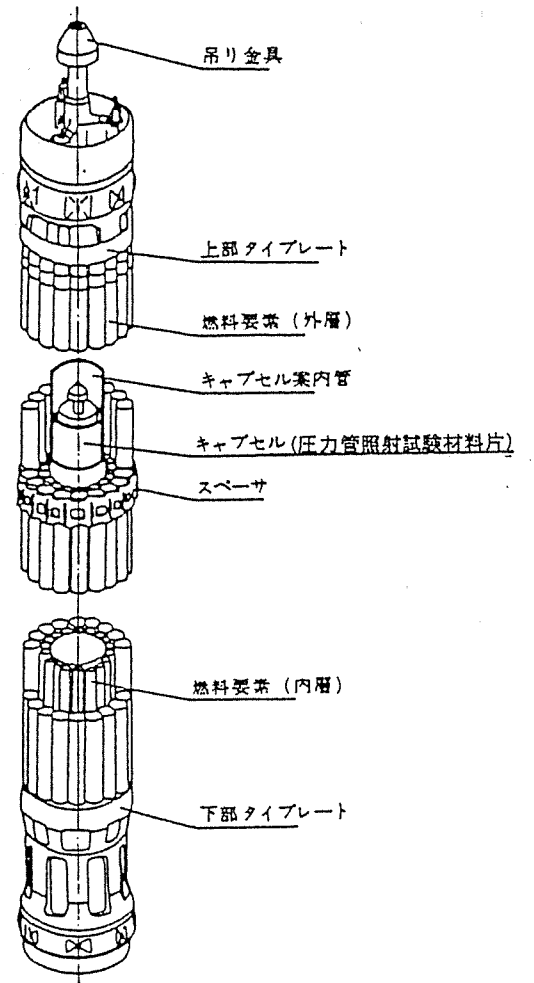


系統概略図

- ⊗ : 漏えい燃料集合体位置
- ⊕ : 特殊燃料集合体装荷位置



燃料集合体配置図



(主要仕様)

有効長	約 4,400mm
外径	約 112mm
燃料棒の本数	36本
キャプセルの数	9個
被覆管の材質	ジルカロイ2

特殊燃料集合体概略図